

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2014 年夏)の結果

当センターでは、2014 年夏のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000 人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

1.ボーナス予想額 : 54 万 4 千円(昨夏比、9 千円増加(1.7%増))

今回のアンケート調査は、政府や社会からの賃上げ要請の効果が期待される中でおこなわれた。今夏のボーナス予想額のアンケート結果は 54 万 4 千円となり、昨夏の受取額(回答者の実績)を 9 千円上回った。予想伸び率は+1.7%で、昨夏のアンケート結果(+0.2%)に比較すると 1.5 ポイントの増加となった。

2.暮らし向きアンケート調査について

今後半年間の見通しについて、「良くなりそう」との回答は若干(1.8 ポイント)増えているが、「悪くなりそう」との回答がそれを上回って増加(10.1 ポイント)しており、先々に対しては消費税増税の直後ということもあって、きびしい姿勢が窺える。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」が、17.6%(昨夏 10.9%)と 6.7 ポイント増加した。しかし「減りそう」も 13.2%(昨夏 13.1%)と 0.1 ポイント微増しており、また「変わらない」が 69.2%(昨夏 76.0%)と 7 割近くを占める。

▽ボーナスの配分については、1 位「貯蓄」、2 位「教育・教養」、3 位は「ローンの返済」で、以下「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買い物」で昨夏と順位は同じである。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.8%、「社内預金」10.4%、「ゆうちょ貯金」7.1%、「株式・投信」1.9%の順となっている。銀行預金の堅調さが今夏も目立っている。

▽貯蓄の目的は、1 位「老後の備え」、2 位「教育資金」、3 位「旅行・レジャー」、4 位「不時の備え」、5 位「住宅関連資金」、以下「結婚資金」、「車の維持管理」の順となっている。

▽購入希望品目では、1 位「婦人服」、2 位「紳士服」、3 位「靴」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ 1 位にあげている。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

—ボーナスの増減予想では、「増えそう」が 17.6% (昨夏 10.9%) と 6.7 ポイント増加した。しかし「減りそう」も 13.2% (昨夏 13.1%) と 0.1 ポイント微増しており、また「変わらない」が 69.2% (昨夏 76.0%) と 7 割近くを占める。—

増減予想を年齢階層別にみていくと、「増えそう」との回答が全年齢層で昨夏に比して増加している。一方「減りそう」との回答は全年齢平均では微増であるが 30 歳代で減少、その他の年齢層では増加している。

「変わらない」の回答は依然として全年齢層で過半を占めており「30 歳未満」の層を除き 70% を超えている (図表-1、2)。

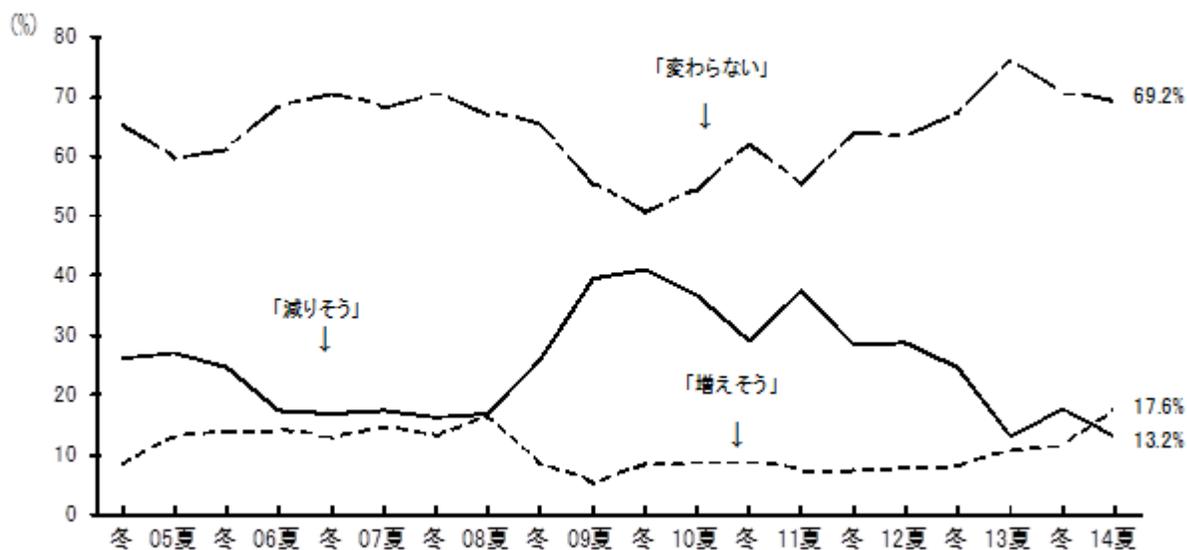
「増えそう」の回答が急速に増加しつつあるが、比率としてはまだ小さい。

なお、ボーナス予定日は、6月中が全体の 61.7% で、7月中が 28.8% である。

図表-1 ボーナスの増減予想 (対前年比)

		(構成比、単位: %)		
		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	12夏	7.8	28.9	63.3
	13夏	10.9	13.1	76.0
	14夏	17.6	13.2	69.2
30歳未満	12夏	17.0	15.1	67.9
	13夏	19.0	8.5	72.5
	14夏	29.8	12.5	57.7
30歳代	12夏	7.5	29.9	62.7
	13夏	15.8	13.0	71.2
	14夏	21.2	6.6	72.3
40歳代	12夏	5.3	28.4	66.2
	13夏	6.3	13.6	80.1
	14夏	12.9	15.3	71.8
50歳以上	12夏	5.7	36.9	57.4
	13夏	6.3	16.1	77.6
	14夏	12.3	16.9	70.8
注) 不明、無回答を除いた構成比				

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

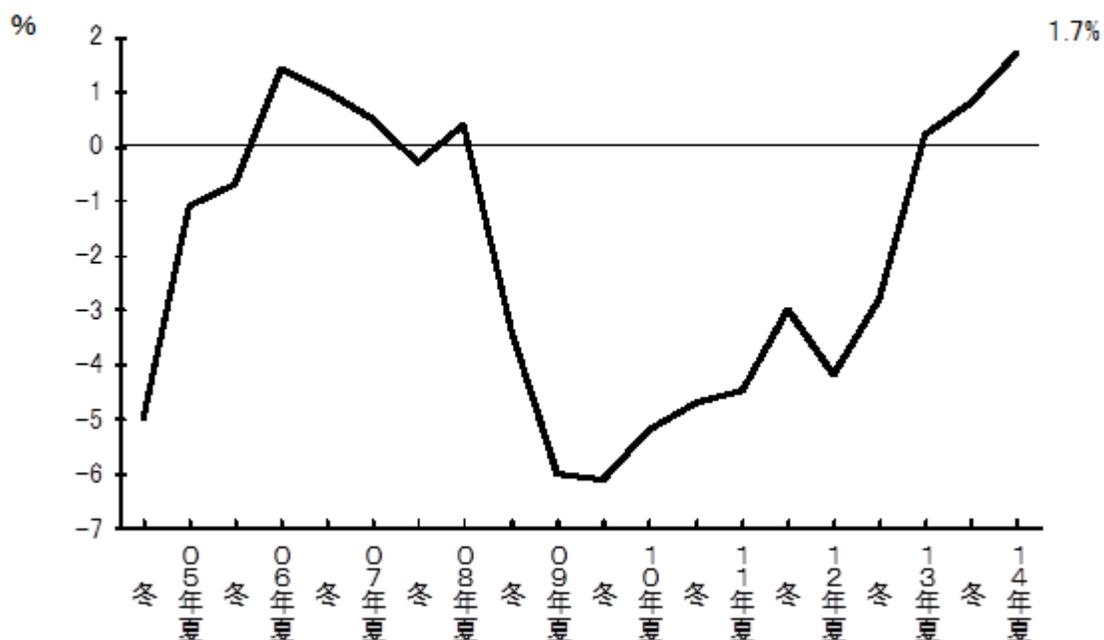
—今夏のボーナス予想額は54万4千円となり、前年の受取額(回答者の実績)を9千円上回った。予想伸び率は1.7%で、昨夏の0.2%(1千円増加)に比較して向上している。—

ボーナスの予想額は、50歳以上で若干の減少となったが、他の年齢層では前年を上回る受取額を予想しており、若い世代ほど伸び率が高い。また、勤務地別での予想額は、都内勤務者が77.7万円、県内勤務者が49.7万円で都内勤務の方が金額・伸び率ともに高い(図表-3、4)。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
全体		54.4	1.7
30歳未満		36.3	6.8
30歳代		44.2	3.0
40歳代		62.6	0.8
50歳以上		65.4	△0.2
勤務	県内	49.7	0.6
地別	東京	77.7	4.7

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3 ボーナスの配分予定

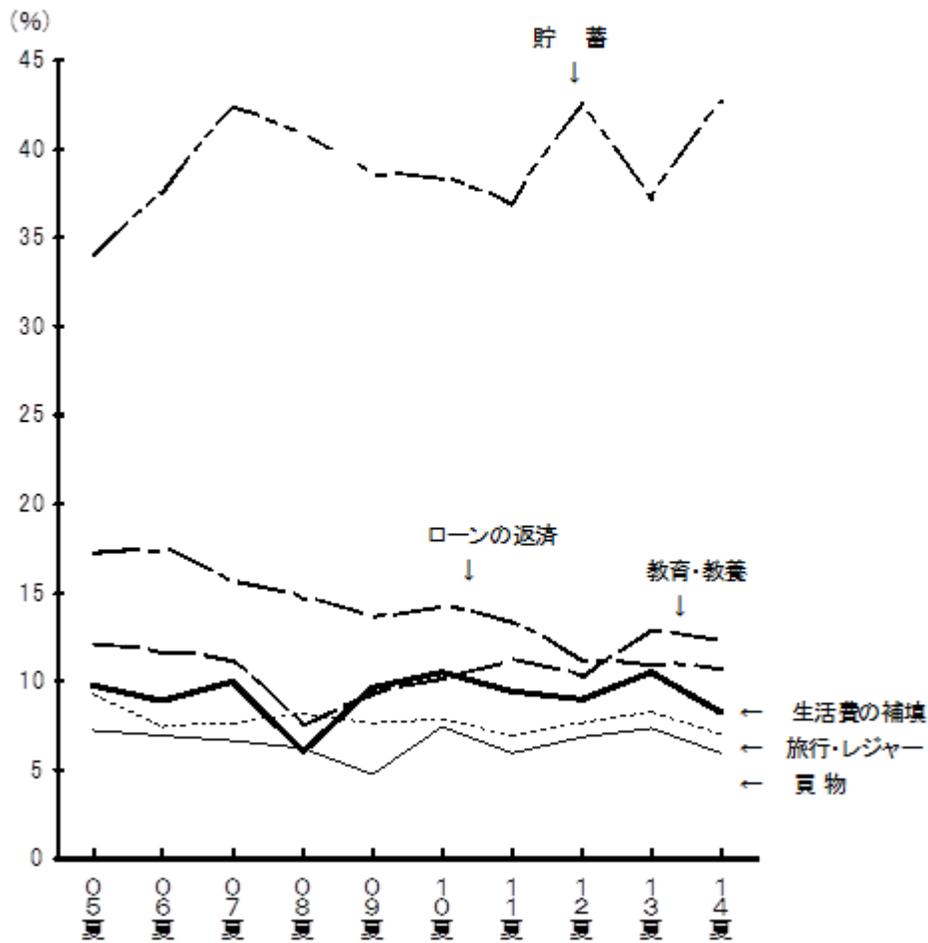
——ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位は「ローンの返済」である。以下「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買い物」の順で、昨夏と同じ順位である。—

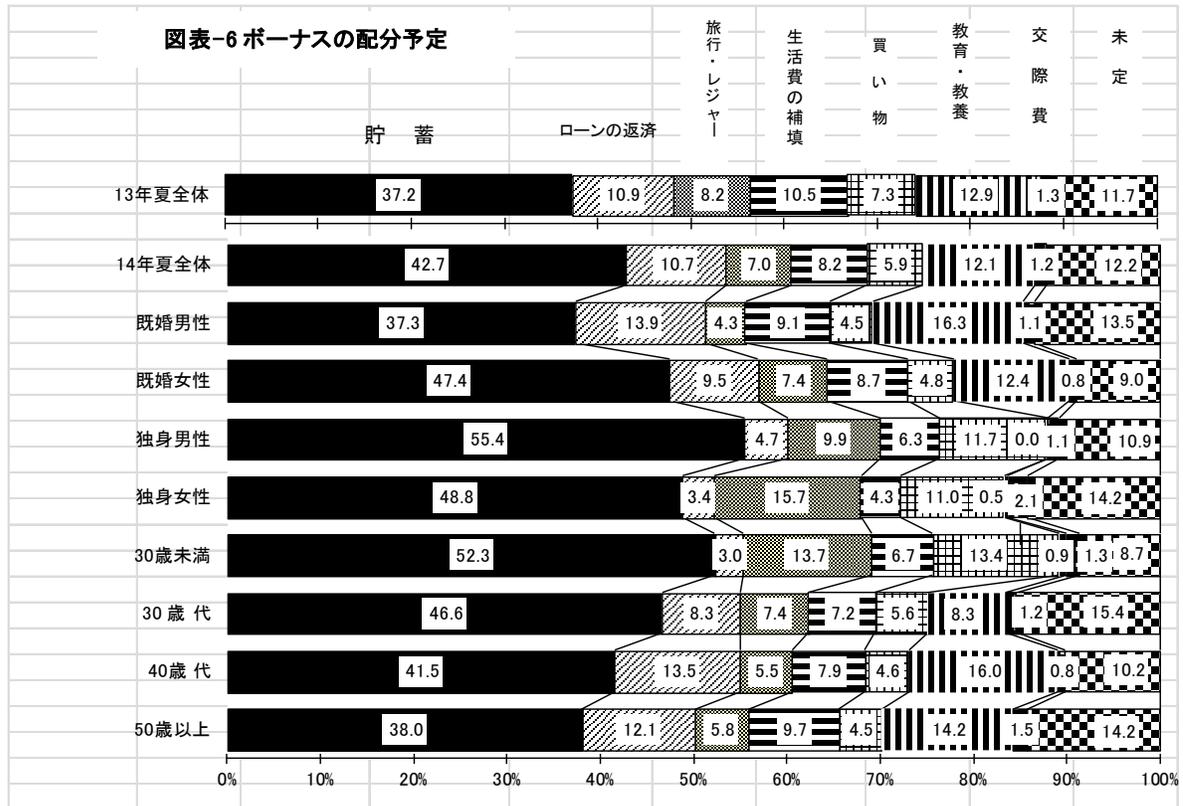
ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(42.7%)、2位「教育・教養」(12.1%)、3位「ローンの返済」(10.7%)で、以下「生活費の補填」(8.2%)、「旅行・レジャー」(7.0%)、「買い物」(5.9%)の順となっている。「貯蓄」は景気の上下にあまり関係なく常にトップである。

既婚・独身、男・女を問わず、「貯蓄」に回す割合が高い。特に独身者は男性、女性ともに貯蓄志向が高く、男性は55.4%、女性は48.8%を貯蓄に回すと回答している。「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて、「買い物」と「旅行・レジャー」のウェイトが高く、既婚者は独身者に比べて「教育・教養」、「ローンの返済」が高く、独身者と既婚者のそれぞれの特徴を表わしている。

年齢別でも、全ての年齢層において、「貯蓄」が一番の配分となっている。特に、30歳未満(52.3%)と30歳代(46.6%)は貯蓄意欲が高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満は「旅行・レジャー」、30歳代・40歳代・50歳以上は「教育・教養」、「ローンの返済」の配分割合が高くなっている(図表-5、6)。

図表-5 ポーナスの配分予定の推移



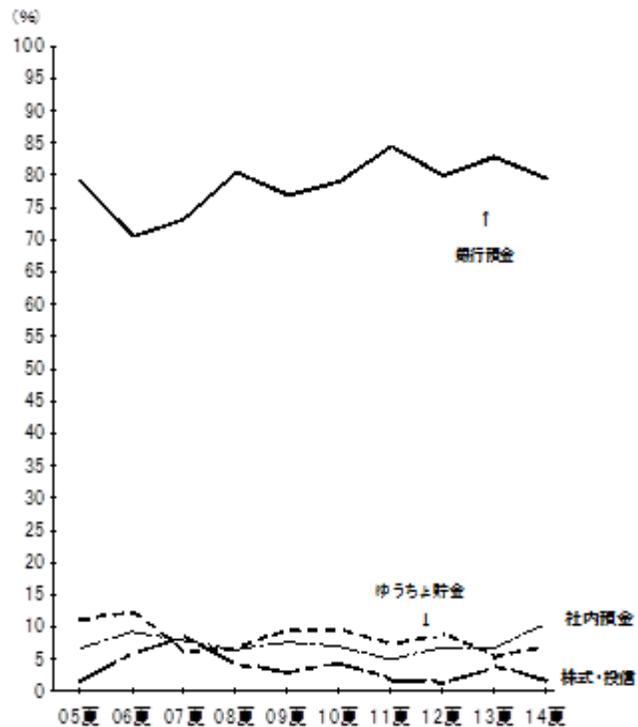


図表-7 貯蓄の内訳推移

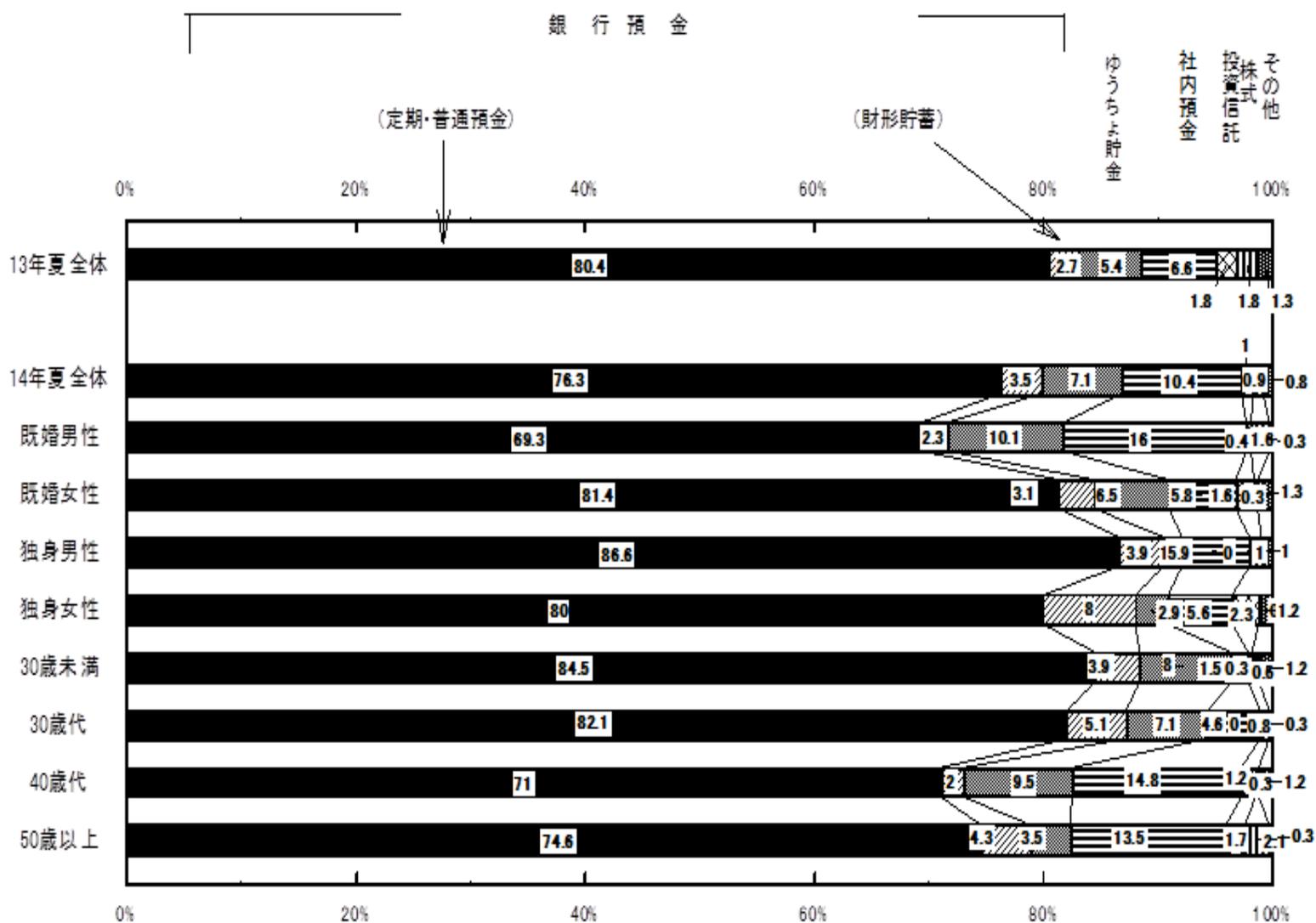
4 貯蓄の内訳

—貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.8%、「社内預金」10.4%、「ゆうちょ貯金」7.1%、「株式・投信」1.9%の順となっている。順位は昨夏と同じであった。銀行預金の堅調さが今夏も目立っている(図表-7)。—

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別、年齢別でみると、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。その中でも独身男性は 86.6%で一番高い割合を示している。「銀行預金」以外では、「社内預金」は既婚男性(16.0%)、「ゆうちょ貯金」も既婚男性(10.1%)、「株式・投信」は 50 歳以上(3.8%)が、それぞれ高い関心を示している(図表-8)。

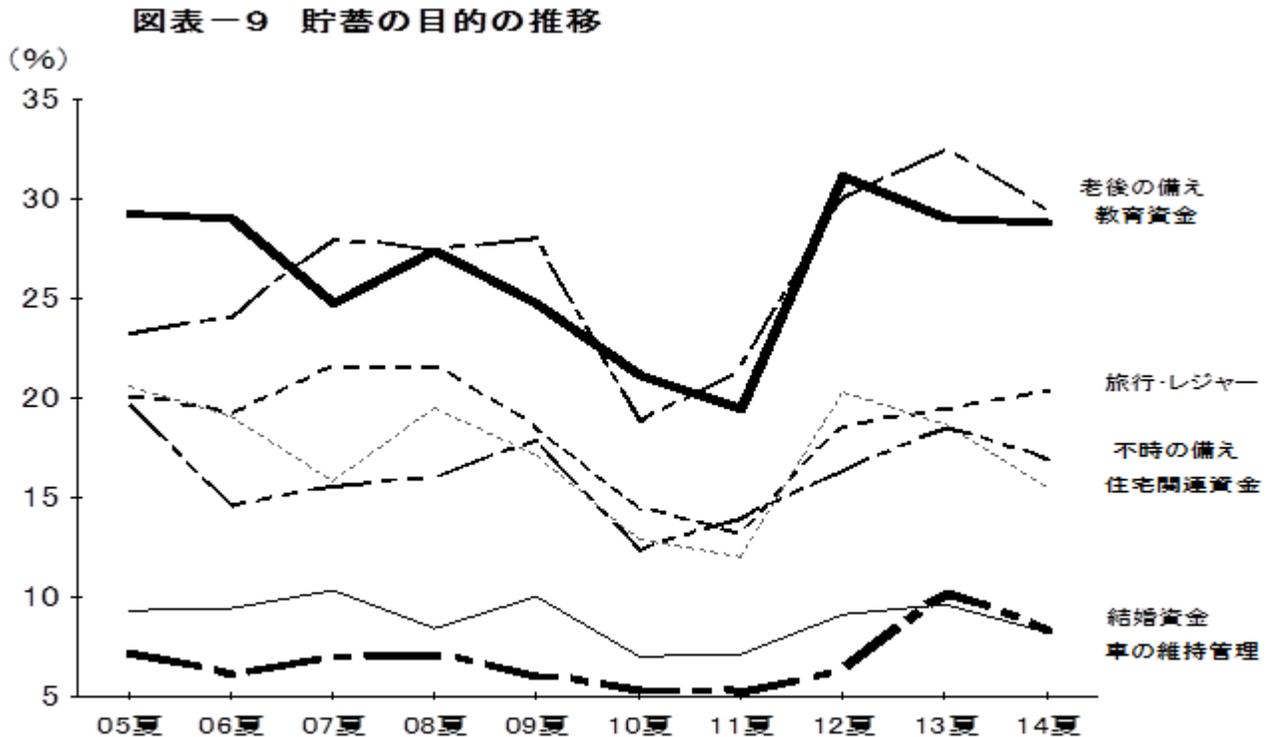


図表-8 貯蓄の内訳



5 貯蓄の目的

—貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」が上位であった。以下「不時の備え」、「住宅関連資金」、「結婚資金」、「車の維持管理」の順となっている(図表-9)。—

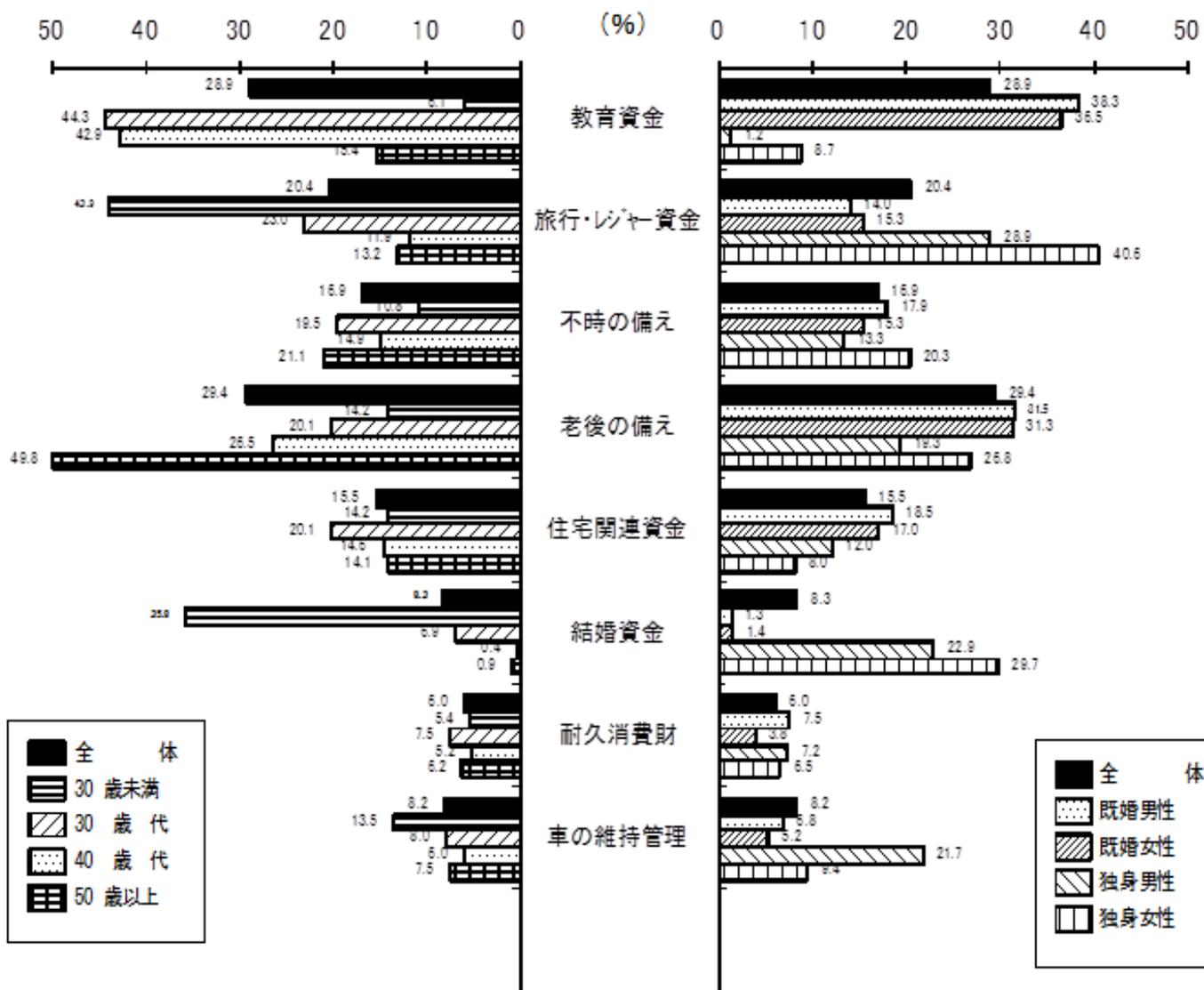


貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」29.4%、2位「教育資金」28.9%、3位「旅行・レジャー」20.4%、4位「不時の備え」16.9%、5位「住宅関連資金」15.5%、6位「結婚資金」8.3%、7位「車の維持管理」8.2%の順となった。

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(43.9%)、30歳代は「教育資金」(44.3%)、40歳代も「教育資金」(42.9%)、50歳以上は「老後の備え」(49.8%)が、それぞれ割合が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「教育資金」(38.3%)、既婚女性も「教育資金」(36.5%)で、独身男性は「旅行・レジャー」(28.9%)、独身女性も「旅行・レジャー」(40.6%)をトップにあげている。(図表-10)

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



6 購入希望主要品目

—購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「靴」が上位であった。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。—

ボーナスで買いたいもの(複数回答)は、「婦人服」(14.5%)、「紳士服」(8.7%)、「靴」(7.8%)の順となった。以下「鞆・ハンドバッグ」、「子供服」、「家具・インテリア」となった。(図表-11)

				(複数回答、単位:%)			
全 体				既 婚 男 性		既 婚 女 性	
	12夏	13夏	今夏	紳 士 服	13.4	婦 人 服	15.0
婦 人 服	13.7	14.7	14.5	婦 人 服	9.7	子 供 服	11.1
紳 士 服	9.5	9.5	8.7	子 供 服	7.9	家 具 ・ インテリア	6.4
靴	6.3	7.1	7.8	家 具 ・ インテリア	7.4	冷 蔵 庫	5.7
鞆・ハンドバッグ	5.2	6.2	6.6	靴	6.3	鞆・ハンドバッグ	5.4
子 供 服	7.1	5.7	6.4	独 身 男 性		独 身 女 性	
家 具 ・ インテリア	7.6	7.8	6.3	紳 士 服	22.5	婦 人 服	27.4
パソコン	5.4	4.2	4.7	靴	10.8	靴	12.7
冷 蔵 庫	3.1	3.6	3.9	鞆・ハンドバッグ	6.9	鞆・ハンドバッグ	13.9
化 粧 品	2.8	2.4	3.8	アウトドア用品	6.9	化 粧 品	11.4
洗 濯 機	3.2	2.5	3.4	スポーツ用品	5.9	家 具 ・ インテリア	6.3
ルームエアコン	3.6	2.8	3.3				

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答は 14.2%で、半年後の先行きについての「増えそう」との回答は 13.7%で、0.5 ポイント減少。一方「減った」は 16.8%で、半年後の「減りそう」は 20.1%で 3.3 ポイント増加する。収入についてはまだ明るい状況ではないことが窺える。

(2) 消費支出

半年前と比べ、支出を「増やした」との回答は 22.0%で、半年後の先行きについての「増やす」との回答は 11.3%で 10.7 ポイント減少。一方「減らした」は 17.9%で、半年後の「減らす」は 34.1%で 16.2 ポイント増加し、家計支出は先行き縮小傾向の回答となった。

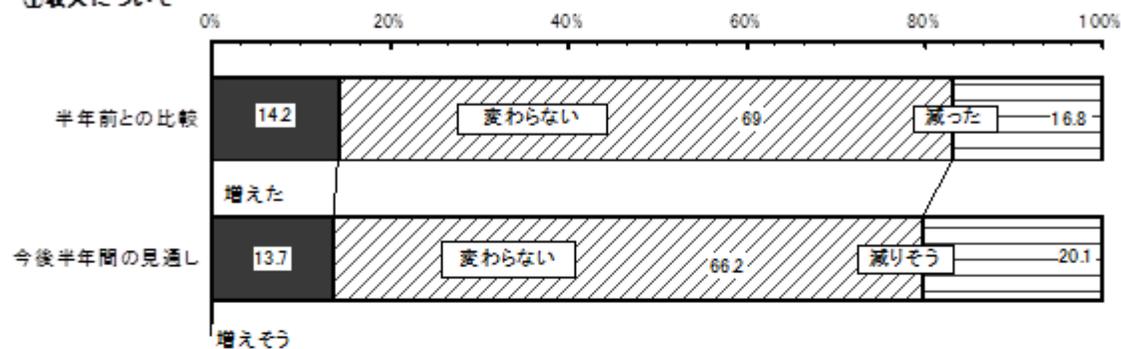
(3) 生活全般

半年前との比較では「良くなった」(7.7%)を「悪くなった」(14.7%)が 7.0 ポイント上回っているが、半年後の見通しは「良くなりそう」(9.5%)と「悪くなりそう」(24.8%)の差が 15.3 ポイントに開き、今後について不安を持つ層が約 1/4 を占めるアンケート結果となった(図表-12)。

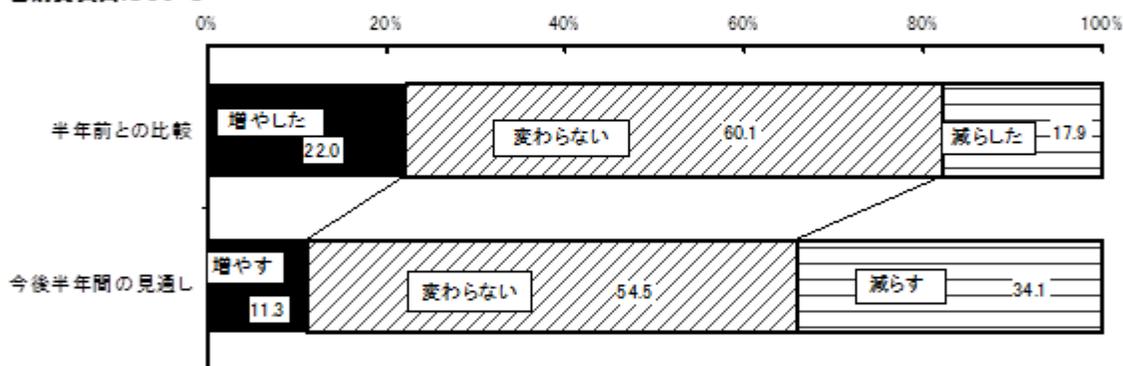
(高橋 廣)

図表—12 暮らし向きの実感と今後の見通し

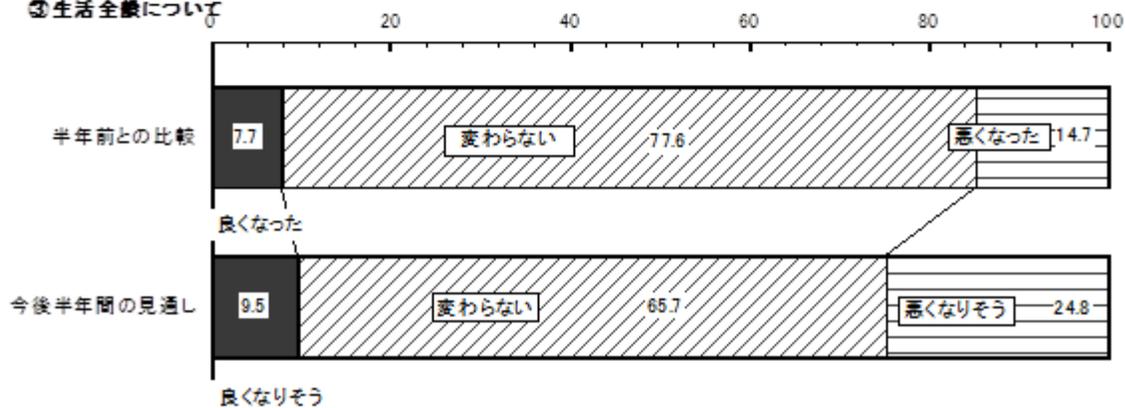
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	14	54	135	105	308
既婚女性	19	74	98	97	288
独身男性	42	21	13	7	83
独身女性	73	25	22	18	138
計	148	174	268	227	817

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2014年4月9日～11日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	817人
有効回答率	81.7%